

京都教区時報

京都教区広報委員会
(編集長 村上透磨)

京都教区本部事務局
京都市中京区
河原町通三条上る

TEL 075-211-3025

FAX 075-211-3041

honbu@kyoto.catholic.jp

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> 4345

2021年 司教年頭書簡を受けて

第8回 大いなるいのちに生かされて

朝焼小焼だ 大漁だ 大羽鰯の 大漁だ。

浜はまつりの ようだけど 海のなかでは 何万の
鰯のとむらい するだろう。(金子みすゞ) 何万の

これは、童謡詩人の金子みすゞの詩です。わたしたちは古くから、このようなみずみずしいのちの感覚をもっていました。生きとし生けるものは、同じ大きないのちを生きていることを、誰かから教えられなくても知っていました。ですから、無用な殺生を戒め、自然と共に生きてきました。

古くから農耕文化を生業としてきたわたしたちは、お互いに助け合い、分かち合い、支え合って生きてきました。そのような、生き方や生活が加速度的に破壊されていったのは、明治以降、西洋文明が入ってきてからです。人間を中心とした資本主義、個人主義、近代科学、数量を中心にした価値観が持ち込まれました。実は、そのような価値観の背景にあるものは、ヨーロッパで培われてきたキリスト教であることを、わたしたちは謙虚に認めなければならぬと思います。

今は「ウイルスとの戦い」という表現が、当たり前のように出てきます。しかし、戦いで倒すべきものはウイルスであるというよりも、わたしたちが、夫々に感染対策に努めること、感染した人のいのちや健康を守ること、偏見や差別、分断を

退け、感染対策によって困窮している人たちのいのちや暮らしを守ること、また自分のことしか考えられないようなあり方を改めていくことでしょう。

そのためにも、人間はあくまでも自然の一部であって、他のいのちに独り勝ちするような人間中心主義の価値観には問題があるように思います。その意味で、わたしたちはもっと自然の前に謙虚でなければならぬでしょう。イエスさまが、「空の鳥を、野の花を見なさい」と言われるとき、自然から切り離された人間ではなく、大きないのちを共に生きている姿がそこにあります。「もはやわたしが生きているのではなく、キリストがわたしの内で生きておられる」(ガラ2:20)とパウロが言うように、わたしが一人で生きるのではなく、わたしのなかで、大きないのちを皆と共に生きているという感覚を、再び取り戻さなければならぬのではないのでしょうか。

洛北ブロック担当司祭 北村善朗



9
2021

ジラール神父様 金祝おめでとうございます



今年、叙階50周年を迎えられたジラール神父様に、お話を伺いました。

ジャン・レイモンド・ジラール神父

レデンプトール修道会所属

1941年12月14日生まれ

カナダ・ケベック・サンジェルヴァイ村出身

1971年5月29日叙階



司祭になったきっかけ

初聖体でしょう。母の弟はアフリカ宣教師で、ウガンダで働いていました。たまたま休暇で帰国された時に、私の初聖体の準備を母としてくださり、私の初聖体を授けてくださいました。何もおっしゃらなかったのですが、相当私の将来について祈ってくださったようです。初聖体の

日から、何になろうかなと思っている際は、必ず「司祭」という可能性が上がってきました。

日本へ

1961年、20歳の時にレデンプトール会に入会して、1965年に来日しました。日本語学校に1年通った後、上智大学で神学を学びました。カナダに一旦戻り、1971年5月29日に叙階されました。そして、モントリオール大学で司牧の勉強をして、1973年に再来日しました。その後は、研修や休暇でカナダに帰る以外、ずっと日本で司牧をしてきました。

鎌倉の雪ノ下教会から始まり、東京の初台教会、丹後の宮津教会、再び雪ノ下教会、そして長野県の上諏訪、岡谷、茅野、富士見教会、2015年から丹後教会で働いています。

嬉しかったこと

50年司祭生活の中で、嬉しかったことは何かと聞かれましたが、それは一つの出来事ではなく、いつもずっと信者の皆さんに支えられ、励まされ、協力してもらいながら、共に歩んで来られたことが嬉しく、幸せなことだったと感じています。間違った道を歩んだ思いはありませんでした。自分の人生を有意義に生かすために、一番ふさわしい道を選んだ確信を持ち続けることが出来ました。

久しぶりの丹後で

30年前に宮津教会に6年間いました。そして、久しぶりの丹後ですが、丹後は大きく変わりました。6つの小教区が1つになり、今年で5年目です。私は1つになりつつあるときにこちらに赴任しました。来たときは、京都北部ブロック担当司祭は5人で、丹後教会は3人で司牧をしていましたが、現在、北部ブロック担当司祭は3人で、丹後教会はほとんど私一人で司牧しています。私も、今年の12月で80歳になります。広い丹後での車の運転も大変になってきました。6つが1つになる大変さの上に、コロナが重なり、司祭人生の中で、今が一番大変だと言えるかもしれません。

叙階50周年のお祝い

コロナのために、小教区としての50周年のお祝いができない、プレゼントだけにしなすと言われました。

小教区全体でのお祝いができないために、まず宮津でももらい、岩滝でももらい、加悦でももらい、そして最後に網野の聖堂でももらって、結局4回のお祝いをしてもらいました。6月後半から7月前半にかけて、幸せなことに司祭館はお花だらけでした。結果として普段の時よりも盛大にお祝いしてもらえて、最高の気分でした。皆さんに心から感謝いたします。

小教区評議会役員研修会
教会と福音宣教の理解
 「コロナ禍における信仰」

報告・福音宣教企画画室

5月29日、小教区評議会役員研修会を行いました。京都教区では毎年役員を対象に、春に研修会、秋に交流会を行っています。昨年一年はコロナウイルス感染防止のために中止しました。今年も会場での集会ができない状況が続いていたため、今回は、初めてzoomでのオンライン開催となりました。画面越しではありますが、約100名の役員・司祭司牧者が集うことができました。

今年の研修会は、事前に司教講話の動画を視聴して、小教区やブロックでできる形での分かち合いをしていただき、当日は、司教による導入、福音宣教企画画室担当司祭の一場神父のコメント、役員全体での分かち合いというプログラムで行いました。

まず、大塚司教は、役員研修会の目的について、役員にはブロック司牧チームとともに、教会の活動を方向づける役割があり、そのために必要な「心構え」と「方法」を学んでもらう機会であると考え、さらに、三年ごとに「教会と福音宣教の理解」「共同体づくり」「社会への福音宣教」という3つのテーマを繰り返す

中で、それぞれの理解を深め考え、時代と社会の動きをよく見て、その時必要とされている教会のあり方を模索していくことが大切だと語られました。

続いて、今回の研修会テーマである、コロナ禍において、私たちが取り組む福音宣教の理解のために次の3つのキーワードを挙げられました。

一、「出向いていく教会」

「福音の喜び」N20
 「自分にとって快適な場所から出て行って、福音の光を必要としている隅に追いやられたすべての人に福音の光を届ける…」これは教会の基本姿勢である。

二、「すべてのいのちを守るため」

(2019年教皇訪日テーマ)
 教会が何か月にもわたってミサをしないという大きな決断を実行していることは、すべての人の健康を守り社会全体の医療的負担を軽減するためであり、ここにも教会の集いのあり方と社会とのつながりが含まれる。

三、「コロナ時代を生きる信仰」

(2021年司教年頭書簡)
 集まることのできない今、教会共同体とは何か、今の現実を、信仰の目でどう受け止めるか、そしてコロナ禍によって変えさせられたこと、新しく得た視点をもって、次の共同体づくりと社会への福

音宣教へと歩むための積極的な時間としてこの時期を過ごしてほしいとすすめられました。

大塚司教の講話を受けて一場神父は、コロナ禍によってわたしたちのいるところは、必然的に快適な場所ではなくなり、新たな宣教の場がわたしたちの日常になった、また、いのちには様々な側面、とらえ方があるが「すべてのいのちを守るため」とは、互いのいのちのとらえ方を大切にすることではないか、とコメントされ、ミサ中止が続く、さまざまな信徒の思いがある中、お互いを大切にしてほしいという熱い思いが伝わってきました。

全体での分かち合いでは、多くの小教区やブロックでオンライン会議の実施、連絡方法の見直し報告される一方、パソコン等の使用が困難な人との情報のやり取りの課題もあがりました。また、負担の少ない感染防止対策の新たな取り組み等も分かち合われ、役員の方々が共同体のためにご尽力くださっていることをあらためて感じる時となりました。



ZOOM 会議中の様子

京都教区司祭司牧者研修 2021・5・26

新型コロナウイルスについて学ぶ

—— 医学的視点から ——

聖ヨゼフ医療福祉センター院長

糸井利幸 (衣笠教会信徒)

■潜伏期・感染可能期間

- ・潜伏期は1〜14日間で、暴露から5日程度で発症する。
- ・発症前から感染性があり、発症1日程度でウイルス量のピークになる。
- ・感染可能期間は発症2日前から発症後7〜10日間程度。

■伝搬様式

- ・新型コロナウイルスの伝搬は飛沫・接触・エアロゾル(微小飛沫)が主体。
- ・水分が蒸発しやすい乾燥環境では、落下する飛沫が少なくエアロゾルの飛散が多くなる。

■マスクの効果

- ・マスクなしでは5分間の会話で1回の咳と同じくらいの飛沫が飛ぶ。
- ・マスクは飛沫防止に極めて有効だが、材質によっては効果が低下する。
- ・汚染された手で不用意に顔を触ることを防止する効果もある。

■換気的重要性

・エアコンを使用していても、換気していないと狭い範囲で空気が攪拌されて

いるだけの状態になるので必ず換気が必要。
・締め切られた空間では、微粒子は咳をしてから約20分経っても空气中を漂う。
・換気回数は30分に1回以上、2〜3分間程度、窓を全開にする。
・窓は空気の流れを作るように2か所以上開ける。

■新型コロナウイルスの生存期間

- ・接触感染を防ぐために、不特定多数の人が触った物に接触した後は速やかに石鹸と流水で手洗いをするかアルコール消毒をする。
- ・80%エタノールで15秒以内に不活化するが、手指に少し浸しただけでは無効で、10〜15秒すり込むことが必要。

■ワクチンについて

- ・現在のワクチンはウイルスを死滅させるものではなく、ヒトの細胞にくっつきにくくして発症を抑える。
- ・ワクチン接種の有無にかかわらず現在の感染予防策を続ける必要がある。

■ミサ再開の基準について

- ・「緊急事態宣言」が解除された場合も、日本カトリック司教協議会の判断と感染状況をみたくて公開ミサの再開について判断する必要がある。
- ・「感染症流行下における秘跡・典礼挙行のガイドライン」を参照。

- ・強感染力、高重症化力の変異株がまん延しているかぎり、「緩和」は慎重に

- ・ならざるを得ない。
- ・ワクチンの普及とその効果が明らかにならない限り、今年いっぱいはある程度の自粛が必要と考えられる。
- ・確実な三密回避と感染予防の厳密な順守でのみミサ再開が可能。

■まとめ

- ・感染力と重症化率の高い変異株流行下で命を守るために

- ①三密を避ける
 - ②マスクをする
 - ③確実な消毒手順
 - ④換気を行う
- などの基本を確実に実施すること。

- ・ワクチン接種の有無にかかわらず、感染予防策は継続。

参考のために、司祭司牧者研修の講演の一部を紹介しました。詳しい内容は、京都司教区のホームページをご覧ください。講演のYouTube動画もあります。

感染拡大の第五波と言われる中、ワクチンの普及や変異株の影響により状況は時々刻々と変化しています。「すべてのいのちを守るため」、私たち一人ひとりが、今一度感染対策の原点に立ち返る必要があるのではないのでしょうか。

編集部



トムのじぶみやき

「明日、何が起るかわからないのに」

この「つぶやき」を読んでいただけるとしたら9月、もう「事件」は終わっているでしょう。「オリンピック」は出来事、祭典ではなく、「事件」となってしまった。何故なら、推進派と反対派の間の責任論争。どちらに転んでも、それみたことか、私たちの方が正しく、お前たちは間違っていたと。本来、平和の祭典のはずが「争い」と「分裂」という結果になりかねない。

では、どうすれば良かったのか。答えは対話。でもこの言葉が曲者。誤解を招くことしきり。対話は討論ばかり。祈りが無い。相手の意見に心を開かない。尊敬と尊重を忘れる。互いの意見に、一理も二理もある。でも完全ではないのです。決めたからには大らかな気持ちで互いの意見を補いながら協力し合うことです。



むしろ教会のあり方や福音宣教に向かって戦っているキリスト者をあてはめて反省しています。私たちが目指す崇高な聖化、目的、神の国とその栄光を離れて、方法論ばかりの理論に終始していませんか。まず、自分に問うています。

広報委員会担当司祭
村上透磨

いやあ、暑いですね。ほんまに暑いです。

去年の夏、大学の授業が全てオンラインでの受講だったこともあり、バイトの日以外はずっと家で涼しくしていました。今年、大学4年生になり、研究室に毎日行くようになったので、汗だぁらだぁらかきながら久しぶりに夏を感じています。

さて、青年センターに関わっている青年たちのことを、皆さんに知ってもらおうということで、今後も一人ずつ近況報告をしていく予定なのですが、自分には報告できるようなことが特にないんですよね。どうしましょうか。さっき口走った研究室での研究内容の紹介でもしましょうか。小型電動ヘリコプタにおけるプロペラ推力制御器の設計の……いや、誰も興味ないですよ。もし気になる方がおられましたら、また今度、イベントにご参加ください。マニアックな理系トークを繰り広げましょう。

もちろんそうでない方も、青年センター主催のイベントは、18~35歳の青年であれば大歓迎です。みんなでいろんなお話をして、交流を深めませんか？ ということで、今後のお知らせを要チェック！！

運営委員/西院教会 栗井 幹

つながりネットワーク 探めよう！セミナー

京都カトリック青年センター

青年センターは、教区を越える青少年活動について
京都教区の窓口となるとともに、京都教区内の各教会、
青年の各諸活動をバックアップするための機関です。



← 青年センターのHPも見てね！

青年センターあんでな

計 報

京都司教区名誉司教 ライムンド田中健一司教が、7月29日に帰天されました。93歳でした。葬儀は、大塚喜直司教の司式で、8月1日にカトリック宇和島教会にて、コロナ禍であることを配慮し、密葬で行われました。後日、カトリック河原町司教座聖堂で、司祭団のみで教区葬が行われる予定です。田中健一司教の永遠の安息のためにお祈りください。



略 歴	
1927年 8月31日	愛媛県宇和島市に生まれる
1951年12月21日	司祭叙階(高松にて)
1958年 4月～	海外留学を経て、大阪教区内にて司牧
1964年 4月～	高松教区にて司牧
1976年 9月23日	京都教区司教叙階
1997年 6月15日	京都司教引退
2021年 7月29日	帰天

9月のお知らせ

司 教

大塚司教の9月のスケジュール

新型コロナウイルス感染症の影響のため、スケジュールが変更される場合がありますので、最新の情報は京都司教区のホームページにてご確認ください。

教 区

広報委員会

※ 11月号の原稿締切り日は9月27日㊦です。

ブ ロ ッ ク

奈良ブロック

オンライン聖書講座(YouTube)
すべてのいのちを守るためⅡ
コロナ時代を生きる信仰(年頭書簡)
(全3回7～9月毎月1回)
講 師：大塚 喜直司教
第3回配信日：11日㊦
奈良ブロックHPからどなたでも視聴できます。10月11日まで視聴可能。

京丹ブロック

新しいホームページができました。ご覧ください。



諸 団 体

京都カトリック混声合唱団

練 習：12日㊦ 14:00 洛星宗教研究館
25日㊦ 18:00

ミサ奉仕後 河原町教会聖堂
現在活動休止中。再開時、団員には連絡します。

問合せ：075(951)4283 則武 隆

コーロ・チェレステ(女声コーラス)

練 習：9日㊦、23日㊦、30日㊦ 10:30
河原町教会 2階楽廊

問合せ：090(701)3303 岡田久美

カトリック京都働く人の家(九条教会内)

定例会：12日㊦ 15:30～17:30
対 象：15～35歳の方 どなたでも
問合せ：090(8207)1831 瀧野正三郎

心のともしび ラジオ番組案内
(全国34局で放送)

K B S 京 都 ㊦～㊧ 朝 5:55
㊨ 朝 5:15
ラ ジ オ 関 西 ㊦～㊧ 朝 5:00
㊨ 朝 6:05

9月のテーマ「授かったもの」

10月のお知らせ

正義と平和協議会/Tel.075(366)6609 ㊦㊧
現地学習会

「人道の港 敦賀ミュージウムと
カトリック敦賀教会を訪ねる」

日 時：9日㊦
集 合：J R 大津駅 8:20
バスにて敦賀へ
帰 着：J R 大津駅 16:30頃

詳細は正平協HPにて
参加費：3,000円
申込、問合せは正義と平和協議会まで



点訳版「京都教区時報」〈無料〉ご希望の方は『カ
障連大阪フレンドリー点字部』嶽崎(たけざき)
裕子さんまでお申込みください。
Tel・Fax/079(431)8601